



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

学報

2015.7.16 Vol.145

三蔵五訓

真理を探究し、道理を实践する。
 豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
 生命を尊重し、自然を畏敬する。
 個性を伸展し、紐帯性を培う。
 未来を志向し、可能性に挑む。



祝

福山大学開学40周年

開学40周年記念行事	1
卒業生の就職状況	5
充実した就職支援	6
新入生合宿オリエンテーション	7
学内トピックス	9
科学研究費助成事業	11
インフォメーション	12
学友会短信	13
国際交流瓦版	14
学内人事	15
訃報	16
財務状況	17
入学試験の概要	19

福山大学開学40周年記念式典を盛大に挙行!

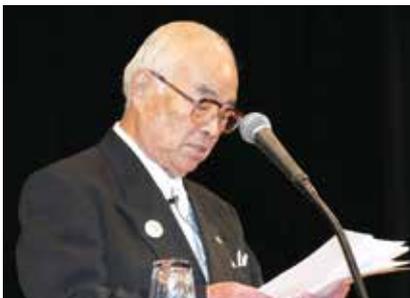


福山大学は開学40周年を迎え、6月27日(土)に大学会館において、記念式典が盛大に挙行されました。

午前10時より、吉田大輔文部科学省高等教育局長や羽田皓福山市長をはじめ、多数のご来賓、教職員及び学生の臨席を得て、富士彰夫開学40周年記念式典実行委員長による開式宣言とともに式典が開式しました。出席者全員による国歌斉唱ののち、清水厚實理事長及び松田文子学長による挨拶へと進行しました。清水厚實理事長は「学生が立派な社会人として大学を巣立つよう努力したい。」と挨拶し、松田文子学長も「地域に根ざしてグローバルに活躍できる人材の育成に力を入れている。」と挨拶を述べました。さらに、名誉学長

称号授与が行われ、理事・評議員を長年務める福山商工会議所名誉会頭の松本卓臣氏と学長経験者である面崎清久氏、吉永昭氏、牟田泰三氏の3氏が清水厚實理事長より授与されました。次に、来賓祝辞では文部科学大臣祝辞を吉田大輔高等教育局長が代読され、羽田皓市長及び日本私立大学協会の石田恒夫中・四国支部長並びに広島県公立高等学校長協会福山支部長の安原宏成大門高等学校長が述べられました。

最後に、出席者全員で福山大学の歌を斉唱し、式典は無事に閉式しました。40年間の歴史の重みを偲んだ、誠に盛大な式典でした。



清水厚實理事長による挨拶



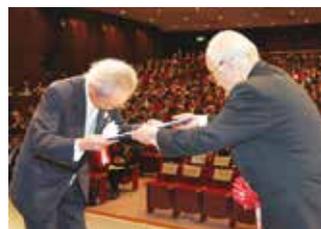
松田文子学長による挨拶



吉田大輔高等教育局長による来賓祝辞



松本卓臣名誉学長称号授与



面崎清久名誉学長称号授与



吉永昭名誉学長称号授与



牟田泰三名誉学長称号授与

福山大学開学40周年記念式典・挨拶

学校法人福山大学 理事長 清水 厚實

本日は福山大学開学40周年記念行事開催にあたり、国会開会中であり、公私共に大変ご多忙のところ文部科学省より高等教育局長吉田大輔先生のご臨席を賜り、記念講演「高等教育における課題と展望」をしていただくことになるとともに、日本私立大学協会中・四国支部長石田恒夫様、日本私立大学協会常務理事・事務局長小出秀文様、福山市市長羽田皓様、三原市長天満祥典様、福山商工会議所会頭林克士様はじめ多くのご来賓のご臨席を賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。

また、本日は地元喜多流大島能楽堂の大島政允先生のご配慮により、喜多流能楽公演が開かれ、人間国宝の友枝昭世先生並びに一噌仙幸先生など、多くの能楽師による公演もさせていただくことになっておりますので、どうか最後までおつきあいくださいますようお願い申し上げます。

さて、福山大学は、元文部省大学学術局長であった宮地茂先生が、昭和50年に「新しい大学」「開かれた大学」を建学の理念として開学したもので、それから40年を迎えることになりました。

大学開学当初から関わったものとして、思えば資金、陣容もまったくなかった宮地茂先生が、昭和48年、60歳のときに一念発起し、「中・四国地区に立派な私立の総合大学を創って、国家・社会に役立つ有為な青年子女を育成する。」という崇高な信念と高い理想のもと、苦勞に苦勞を重ねて大学を創設したものであります。

また、大学は福山商工会議所、尾道商工会議所、近隣の各市商工会議所、福山市はじめ多くの団体、個人の全面的なご支援、ご協力により設立され、本年開学40周年を迎えることになったもので、改めて関係者のご支援、ご協力で心から厚く御礼申し上げます。

開学当初は経済学部、工学部の2学部3学科、学生数543名でスタートしましたが、平成27年には経済学部、人間文化学部、工学部、生命工学部、薬学部の5学部14学科と経済学研究科、人間科学研究科、工学研究科、薬学研究科の4大学院、学生数3,253名が在籍する総合大学として、その責任と役割を立派に果たし

ているものであります。

ご高承の如くこの10年は、「失われた20年」の後半として、政治の混乱、経済の低迷に合わせ、東日本大震災が起こるなど大変な時期でありました。幸い平成24年にスタートした安倍政権によるアベノミクスにより金融緩和、財政出動、成長戦略などの政策により「経済の持続的成長をもたらす構造改革」が進められ、経済全体として明るい展望が開けてきました。

本学でも、この困難な情勢の中、歴代学長はじめ現学長松田文子先生の豊富な経験に基づくガバナンスと高い見識により、これを克服し、大学を着実に発展させてまいりました。また、教職員の皆様も大学を発展させるため日夜厳しい努力を重ねており、そのご苦勞に改めて心から感謝申し上げますところであります。

福山大学としては、私立大学の果たす役割と責任を自覚するとともに、大学の50年先、100年先のことを考え、平成23年に「長期ビジョン委員会」を組織し、学部・学科の再編強化、施設・設備の改善充実、入試・広報対策の充実強化、就職対策の充実、地域・社会との連携強化、国際交流の推進の6部会により、グローバル化などの社会の変化や高等教育改革等を受け、現状と将来を展望し、大学の教育改革並びに経営改善などを進めることにしています。

大学は40周年を機に、改めて創立者宮地茂先生が提言した「建学の精神」である「全人教育」すなわち「人間発達可能性を全体として調和的に実現していくことを目指す教育」という崇高な教育理念を再確認し、在籍する総ての学生に対し、知・徳・体の総合力をしっかりと身につけるとともに、国家試験や教員試験などの諸資格をきちんと取るよう全教職員が一丸となって学修指導はじめ生活指導、就職・進学指導を行い、立派な社会人として大学を巣立つよう努力したいと決意を新にしているところであります。

そのために、関係者の皆様の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げ、ごあいさついたします。

福山大学開学40周年記念式典・挨拶

福山大学 学長 松田 文子

こんにちは。学長の松田です。

今日は、福山大学開学40周年記念式典に当たり、お忙しい中、文部科学省高等教育局長の吉田大輔先生をはじめ、本学の開学にご尽力いただきました方々、あるいはその後の福山大学を見守り共に育てて下さいました日本私立大学協会や地域の自治体・企業等の皆様、連携して活動をして参りました近隣の学校や大学の関係者の皆様、等々、多数のご来賓の方々や関係者の方々のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また、40年と言えば、卒業生も34,000人、初期の頃の卒業生がちょうど地域や組織の中核となりリーダーとなって活躍している年頃で、今日は同窓生もかなり参加してくれております。

さて、現在、福山大学の教職員は「学問のみに偏重するのではなく、真理を愛し、道理を実践する知行合一の教育によって、人間性を尊重し、調和的な全人格陶冶を目指す全人教育を行う」という創設者・宮地茂初代学長による建学の精神を大切にしながら「地域の中核となる幅広い職業人の育成」をミッションとして、入学した学生には全員卒業時の確かな学士力と質の高い就職を保障すべく、日夜努力しているところです。地元企業や自治体の関係者の方々の強力なご支援により、就職率はここ数年、ほぼ100%です。

他方で、大学ユニバーサル化時代を迎えて、学生の興味や学力が多様化する中で、科学・技術の急速な進歩とグローバル化に代表される社会や職業の変容は、大学卒業生に対して社会が期待する能力等を高度化・多様化させています。このような状況下で、面崎清久元学長は人間文化学部心理学科を開設するなど、吉永昭元学長は薬学部設置制度変更に伴う6年制への移行など、大学の発展に多大の貢献をされました。さらに、牟田泰三

前学長の就任以来、本学は教育改革に邁進してまいりました。教員が「教える」ことで「教育がなされた」といえるのではなく、学生が学ぶべきことを「学んだ」とき「教育がなされた」とすることを徹底し、学生が学ぶべきことを明確化・体系化してまいりました。最近では、教育方法の改善とそれを可能にする施設・設備の充実に特に力を入れているところであり、例えばICT機器導入により、学生がいつでもどこでも学べる、あるいは学びたくなる環境づくりを進めております。

こうして、社会の要請にマッチした有為な人材を世に送り出す一方で、外から見れば「頼りがいのある、地域の知の拠点」としての地位を確立することが「備後百万人圏の中核となる大学」の創設者の思いを受け継ぐことになるとともに、地方私立大学としての福山大学の存在意義でもあろうと思っております。近年、「地域学」関連科目を全学的に広げ、地域に根ざした教育・研究を産学官が連携して行い、さらに地域に根ざしてグローバルに活躍できる人材の育成にも力を入れているところです。地域の方々のご協力に心から感謝いたします。「備後百万人圏の中核となる大学」を、「時代・社会の要請に応えうる大学」を、「備後の文化・社会・経済に貢献する人材を育てる大学」を、「入学後に人間味あふれる学生の育つ大学」を、の創設者の思いは開学以来40年、着々と実現されており、開学50周年、開学100周年に向けて、さらに力強く実現されるべく、これからも努力する所存です。本日、ここにご列席の皆様からは、引き続きの一層のご支援とご指導を賜りたく、よろしくお願ひ申し上げます。

簡単ではございますが、皆様への感謝と御礼の気持ちを述べまして、また今後のさらなるご支援とご協力をお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

福山大学開学40周年記念式典・祝辞

文部科学大臣 下村 博文

(代読)文部科学省高等教育局長 吉田 大輔

本日、福山大学開学40周年記念式典が挙行されるに当たり、一言お祝いを申し上げます。

宮地茂氏により昭和50年に開学された貴学は、豊かな人間性を基盤に調和のとれた全人格陶冶を目指す「全人教育」を教育理念としながら、常に時代の進展と社会の要請に対応しながら発展を遂げてこられました。これもひとえに、教職員の皆様、学生、保護者や同窓会の皆様をはじめ、関係各位のたゆみない御努力によるものであり、深く敬意を表します。

さて、我が国は、人口急減、超高齢化という背景の下、地方の人口減少や地方経済の縮小という大きな課題に直面しており、各地域において、その地域の特性を活かした自律的で持続的な社会を創生することが急務となっています。大学にも、地域の中核となる人材の輩出が強く求められるとともに、地域コミュニティや地域経済の活性化、地域課題の解決等にも取り組むことが期待されます。

こうした中、貴学は、地域に根ざした総合大学としての役割を着実に果たしてこられたと承知しております。例えば、文部科学省

の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」において、貴学は、中国・四国地域の他の大学・短期大学と連携しながら、地元企業と連携したプロジェクト・ベースト・ラーニングやインターンシップ等を推進し、産業界のニーズを踏まえ自らを磨くことのできる人材を育成しておられます。また、文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」による備後就活仕掛け塾の開設、広島県の「ものづくりグローバル人材育成事業」による地元企業と連携した国際ビジネススキル養成講座の開講など、地域と連携した教育改革に積極的に取り組んでおられます。今後も、建学の精神に基づき、地方創生への貢献と地域の未来を担う人材の育成に向けて、教職員の皆様が一丸となって取り組まれることを切に期待しております。

本日の栄えある式典を契機として、貴学が、これまで培われた伝統と実績を継承しつつ、充実した教育研究にその真価を一層発揮されますことを念願してやみません。

結びに、貴学の今後ますますの御発展と、御参会の皆様のご健勝を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

開学40周年記念講演

記念式典に引き続き、吉田大輔高等教育局長による記念講演「高等教育における課題と展望」が行われました。

吉田大輔高等教育局長は「18歳人口が急激に減る中、私立大学への進学者の8割近くが東京や大阪、愛知などの大都市圏に集中するなど、地方の私立大学を巡る経営環境は厳しさを増しており、高等教育を活性化するには、高校教育、入試制度、大学教育の一体的な改革が必要です。それと同時に、これからの大学教育には、知識の伝達や

注入を中心とした授業からグループワークやディスカッションを取り入れた「アクティブ・ラーニング」への転換が求められており、教育方法の変化に応じた教員の教育力の向上、学修成果の新たな評価基準づくりも課題です。」などと話されました。

大学教育の在り方が大きく変わる中での、大変参考になる講演となりました。

開学40周年記念能楽公演

記念式典、記念講演に引き続き、人間国宝の友枝昭世氏並びに一噌仙幸氏の2氏も出演された喜多流大島能楽堂による能楽公演が行われました。

「能」は室町時代に足利義満の後援を受け、観阿弥・世阿弥父子によって大成された舞台芸能で、声楽と囃子という器楽によって、舞踊的な所作でストーリーを進める形をとっています。

福山藩の水野家時代には武家の間で、阿部家時代には

武家の他に町人の間でも流行し、盛んに演能されました。

明治維新以降は、藩士であった大島太郎が師匠の後を継ぎ、十四代目世宗家に指示し、備後一円に能楽を普及させました。現在、大島家は四代目の政允氏を中心に国内外で能楽の普及活動に努めておられます。

また、当日は仕舞「高砂」と能「羽衣」が演じられ、ご来賓、教職員及び学生の他、学外からも多くの鑑賞希望者が訪れ、好評を博しました。



開学40周年記念祝賀会

記念能楽公演に引き続き、記念祝賀会が開催されました。

午後1時から会場を大学会館1階食堂・ホールに移し、清水厚實理事長の挨拶で始まり、これまで福山大学を育てていただいた地元関係者への感謝と今後への新たな発展への決意を力強く述べました。また、来賓を代表して、林克士福山商工会議所会頭及び小出秀文日本私立大学協会常務理事・事務局長が挨拶を述べられました。続いて、清水厚實理事長をはじめ、来賓の方々

が鏡開きを行い、池田晃治広島銀行代表取締役頭取の発声で乾杯後、和やかな懇親会に入りました。歓談中には、箏曲部による琴のたおやかなしらべ「さとうた〜日本の歌」が雰囲気を盛り上げました。箏曲部はわずか1年前に誕生したばかりでしたが、見事な演奏を披露してくれました。その後、福山大学伝統の三蔵太鼓が「神々の舞」で勇壮に祝賀会を締めくくりました。

最後に、大谷巖副理事長による閉会の挨拶で、福山大学開学40周年記念行事は盛会のうちに終了しました。



平成26年度の就職状況と就職支援

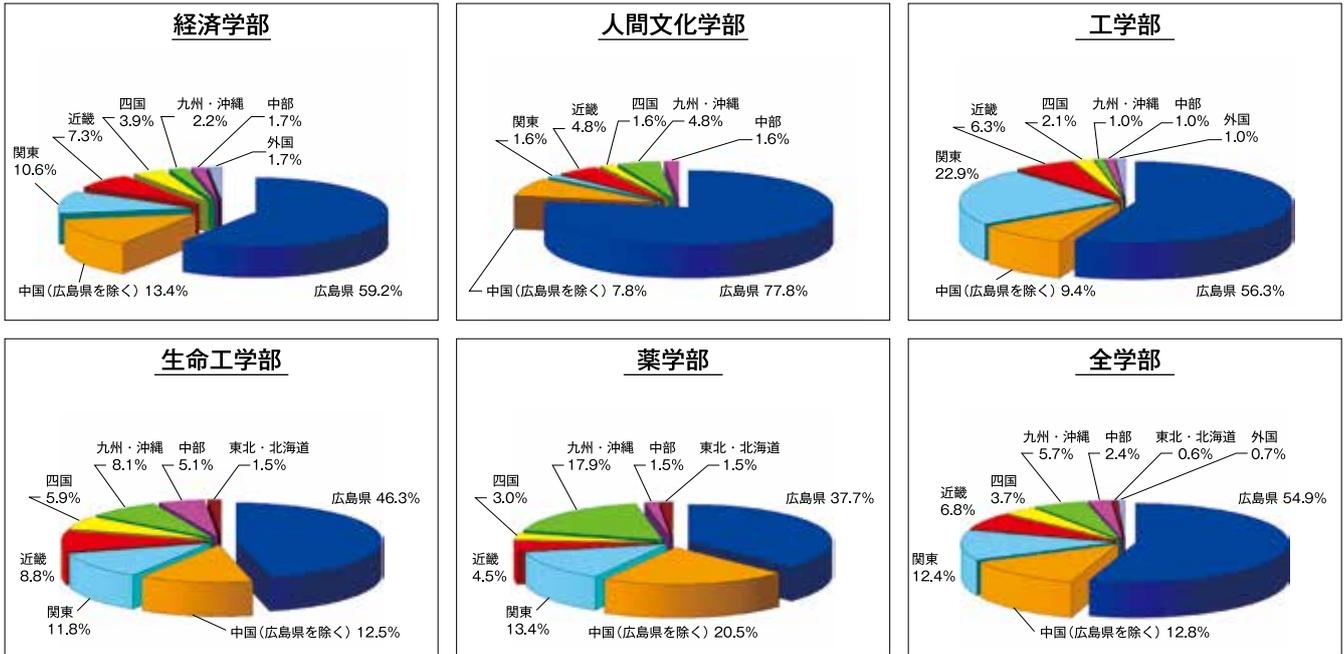
平成26年度に福山大学が受付けた求人件数は 12,163件で、昨年度の 9,951 件を約 2,000 件上回りました。就職情報サイトのWEB募集等を加えれば求人件数もかなり向上し、平成26年度における卒業生の就職率は 99.4%を達成することができ、昨年度の 98.8%を 0.6%も上回りました。中国・四国地方は 97.3%という中で、卒業生が頑張った結果といえます。なお、全国平均は 96.7%(そのうち、私学は 93.7%)となっていますが、これを大きく上回る就職率を達成することができました。このように、就職

状況はかなり良くなっており、努力すればほとんどの学生が就職可能な状況になっています。

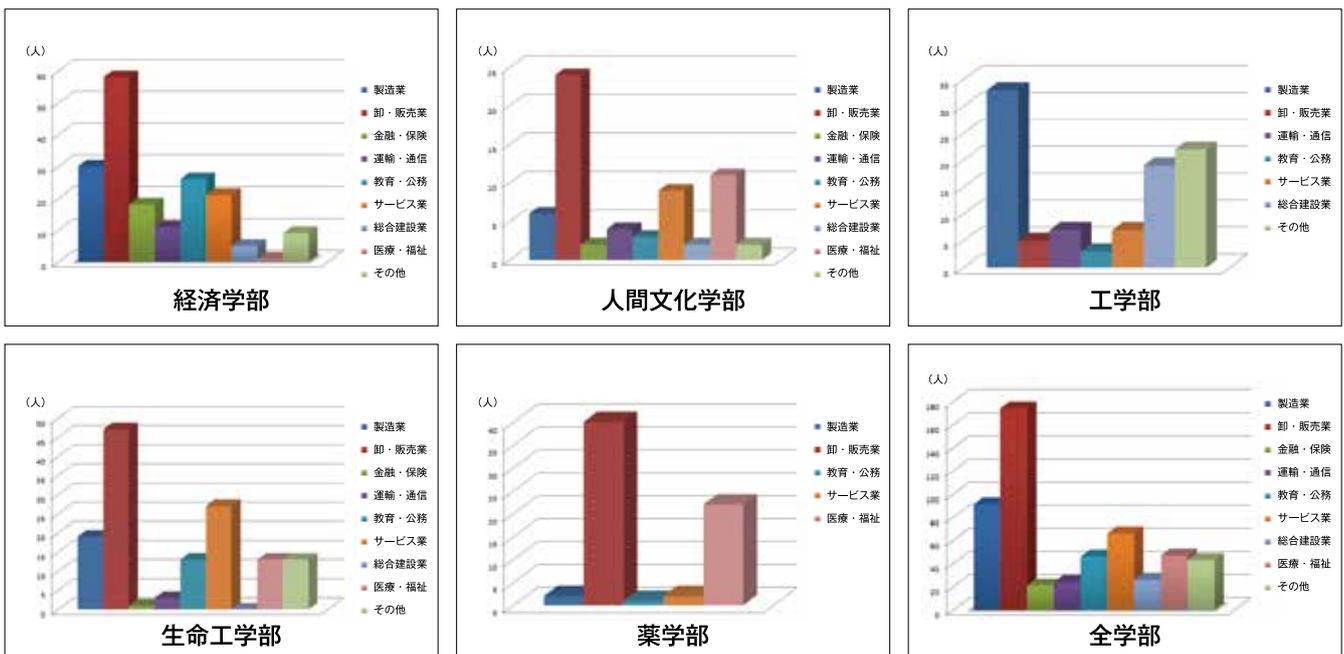
現在は、就職委員を中心に今年就職した卒業生の就職先を優先的に企業訪問し、卒業生のフォローと新卒採用枠拡大のお願いをしています。また、学内での単独企業説明会を積極的に増やすなど、大学を挙げて就職支援を強化しています。

平成26年度卒業生の各学部・全学部の地域別及び業種別(大学院等への進学を含む)の進路状況は、以下の通りです。

平成26年度 地域別進路状況



平成26年度 業種別進路状況



福山大学独自の就職支援の取り組み

福山大学では、学生一人ひとりが少しでも希望する職業に就けるよう、ゼミ担当教員を中心に就職委員や就職課職員が一体となった独自の下記プログラムによる就職支援を行っています。

国家資格「キャリアコンサルティング技能検定1級」保有の職員が行う就職対策講座は、学生の希望する日時に随時対応しています。

個別指導としては、学生がWEB就職システムに登録した希望する職種・業種・企業名をゼミ担当教員や就職課職員が確認したうえ、適切な指導や支援を行っており、面談内容を登録することでゼミ担当教員と就職課職員とが相互に情報を共有しま

す。また、学生は就職活動の現況報告を登録することで、ゼミ担当教員や就職課職員と双方のコミュニケーションを充実させることができます。このように、一人の学生に対し、多方面から一貫性のある就職支援を可能にしています。WEB就職システムには、学生が大学宛の求人票を学内だけでなく自宅からでもパソコンやスマホを使って閲覧・検索できたり、自分が希望する企業や職種・業種を登録しておけば、求人票が大学に届いた時に学生個人のメールアドレスに案内する機能も備えています。

その他、次のような支援を行っています。

1. 就職ガイダンス

- 第1回就職ガイダンス：6月
就活スケジュールとこれからの対応
- 第2回就職ガイダンス：6月
社会人基礎力を身につけるために
- 第3回就職ガイダンス：7月
進路について、進路希望登録
- 第4回就職ガイダンス：9月
今年度の状況及び求められる人材像
- 第5回就職ガイダンス：10月
働くこと、労働法について
- 第6回就職ガイダンス：11月
体験発表会
- 第7回就職ガイダンス：1月
求人票の見方、企業選びの基準
- 第8回就職ガイダンス：2月
合同企業説明会事前準備の仕方

2. 就職対策講座

- 夏季SPI講座(業者) 4コマ
- WEBテスト マイナビ全国テスト
- SPI夏季集中講座(有料) 9コマ(希望者対象)
- 秋季SPI講座(業者) 4コマ
- WEBテスト リクナビ全国テスト
- SPI冬季集中講座(有料) 9コマ(希望者対象)
- 業界研究講座 リクナビ、マイナビ主催
- 履歴書・エントリーシートの書き方講座 随時
- 面接対策講座(グループ面接) 随時
- グループディスカッション対策講座 随時

3. 学内合同企業説明会

- 3月 福山ニューキャッスルホテルで実施
広島県内外から130社が参加
 - 5月 薬学部対象 病院・企業等151社が参加
 - 5月 学生会館で実施
広島県内外から267社が参加
- ※次回は夏季休業後に実施予定

4. 単独企業説明会

福山大学学生のために企業を招き、個別の会社説明会を実施

5. 保証人との就職懇談会

薬学部：4月
経済学部・人間文化学部・工学部・生命工学部：12月

6. 就活相談

国家資格「キャリアコンサルティング技能検定1級」保有職員による相談対応
ジョブサポーターによる相談対応、企業紹介

7. 就職情報サイト運営会社主催の合同企業説明会に貸切バスで参加

広島・岡山・松江・大阪・福岡の各会場に参加

採用内定者のコメント

木之下 聖 国際経済学科(平成27年3月卒業) 内定先：株式会社広島銀行



私は就職活動において、大切にしていたことが2つあります。1つ目は、「企業の方が求める学生がどのような人物かを正確に捉える」ということです。合同企業説明会等では、多くの企業の方が求める学生像の話がされると思います。求める学生像が全く同じということはありません。なので、私はどの長所や短所をアピールするか考え、履歴書の内容や面接で話す内容を企業ごとで変えていました。志望理由で企業に対する熱意を伝えることも大切ですが、自己PR等の内容でもアピールするべきだと思います。自分自身をアピールするためには、自己分析を繰り返し行い、企業の特色や求める学生像などをきちんと捉えることが大切だと思います。2つ目は、「自分に自信を持つ」ということです。就職活動では、集団面接をす

る機会があります。皆さん、それぞれ貴重な体験をされていて、自分にはない魅力を持っていました。私は、その際に他の就活生と自分を比べて自信を失うことがありました。そして、そのような気持ちは表情や声色、態度に現れていました。しかし、企業の方は今までの経験や学んだことに自信を持っている人の話を聞きたくなくとも思いません。他の就活生と自分を比べて、自分の良さを積極的にアピールすることが大切だと思います。

就職活動は、自分について真剣に考えることができる貴重な時間です。周りの方の意見も時には大切ですが、後悔のないよう自分が納得できる就職活動をしてください。

箱田 壮勇 機械システム工学科(平成27年3月卒業) 内定先：学校法人呉武田学園呉港高等学校



私は教員志望でしたが、一般企業について知ることが大切だと思い、採用試験が行われるまでの期間は合同企業説明会などへ積極的に参加しました。3年生の2月から活動を始め、企業について多くのことを知ることができました。教員の採用試験は、公立の学校と私立の学校に分かれていて、公立なら4月、私立なら8月に行われる試験を受ける必要があります。教員採用試験では、教科の勉強とともに、一般教養の勉強などをしていくと良いと思います。私が就職活動をしていく中で学んだことは、自己分析は非常に重要であるということです。企業の採用試験では、筆記試験やグループディスカッションなどがありますが、個人面接や集団面接では自己PRは絶対に聞かれます。自己分析をしていなければその質

問に答えられませんし、自分のことがわからないのかと悪い印象を与えてしまうからです。「自分のこと」、「自己PR」、「長所・短所」、「大学生活で頑張ってきたこと」、「自分がその会社に入ったらどう役に立つか」などをしっかりと考えておけば良いと思います。就職活動と並行して教育実習などを行い、苦労したことが多かったのですが、あの時の苦労があったからこそ内定をいただけたのだと思っています。後輩の皆さんは自信を持って就職活動を頑張り、内定を勝ち取ってください。そして、教職課程を履修している後輩の皆さんは教員になるには多くの苦労があると思いますが、諦めずに夢を追いかけてください。

片山 佳織 薬学科(平成27年3月卒業) 内定先：独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院



私が病院に就職しようと思った理由は、5年後の自分を想像し「病院で幅広い知識を身につけ、患者さんと医師、看護師など様々な医療関係者から頼られる薬剤師になりたい」と思ったからでした。合同企業説明会や病院見学には積極的に参加し、ここで働きたいと思える病院に巡り合うことができました。そして、採用試験でSPI試験と面接があると知ってからは、国家試験の勉強と並行しながらSPI試験用の本を借りて何度も解き直し、面接の練習も家族や友達相手に納得のいくまで行いました。幕末の長州藩士である吉田松陰は「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。

故に、夢なき者に成功なし。」という名言を残しています。つまり、夢をつかむためには理想を持ち、そのために計画し実行に移すことが大事だということです。この言葉は就職活動だけではなく、国家試験や仕事にも通ずるものだと思っています。今は、頼られる薬剤師になるという夢を実現させる第1段階として、質問に対して相手が納得できる回答をするということを心がけています。皆さんにも自分が将来どうなりたいのか明確なビジョンを持ち、それを実現させるために何をしなければならぬのかを考えて就職活動に取り組んでほしいと思います。就職活動は、これからの人生を左右する大事な一歩です。悔いのないように精一杯頑張ってください。応援しています。

新入生合宿オリエンテーション

経済学部

大学生活のスタートダッシュ！



私たち経済学部は、4月5日(日)～6日(月)の2日間、新入生合宿オリエンテーションを行いました。1日目は、チームリーダーの先輩たちに単位の取り方などを教わりながら時間割を作成しました。その後、「ツネイシしまみビレッジ」に移動して自己紹介を行い、仲を深めました。2日目は、班に分かれてグループディスカッションを体験しました。初めてのことで、どうすればよいか分かりませんでしたが、チームリーダーを中心に意見を出し合い発表しました。その後、格闘技で有名な中村和裕先生による護身術をみんなで

教わり、実際にやりました。初めて護身術をやってみて難しいと感じましたが、みんなでも楽しくできて良かったです。また、10班に分かれてチームを作り、玉入れで対戦も行いました。とても盛り上がり、交流を深めることができました。

このオリエンテーションを通して、これからの大学生活における不安が少なくなり、良いスタートダッシュを切ることができました。卒業までの4年間、充実したキャンパスライフを送りたいと思います。

経済学部 1年

正木 志帆・村上 美桜・門田 桃花

人間文化学部 新入生合宿オリエンテーションでの体験！

私は、この合宿でたくさんの友達ができました。「尾道ふれあいの里」までバスで行き、着いてすぐに自己紹介を行いました。みんなの出身地を聞いて、遠くから来ている人が多く驚きました。夕食後は、今度はグループで好きな物と嫌いな物の話をして、歌うのが好きな人が歌ってくれて大いに盛り上がりました。2人部屋のため、もう1人の子とテレビを観ながら談笑をして、とても仲良くなれました。また、朝食後には、同学部のメディア情報文化学科の新入生と簡単なゲームを2つ行いました。初めはグループを作って円になり、自分の名前と好きな物を言い、次の人は前言った人の名前と好きな物に自分の名前と好きな物を付け加えて答えました。さらに、その次の人は前の人と

前々の人の名前と好きな物を答え、自分の物も付け加える、といったゲームを行いました。順番が遅いほど難しいゲームのため、何度も間違える人と1回で全て言える人の差が激しく、おもしろかったです。2つ目は、お題をもらって絵に描き、次の人がその絵を何か理解して、自分も描いて次の人に見せるリレーを行いました。アンカーの人は絵が何か答えるのですが、お題が『ふなっしー』なのに、途中でリーゼントになっていたり、『クレヨンしんちゃん』が『星のカービィ』に変わっていたりしたので、とても笑いました。ゲームは上手くできなくて悔しかったですが、みんなとゲームをクリアできた時の達成感は一気持良かったです。

心理学科 1年 松岡 優奈



工学部 新入生合宿オリエンテーションを終えて！



私たち建築学科は、大学生活に様々な想いを込めて、初めての行事である新入生合宿オリエンテーションに参加しました。まず、名前と顔を一致させるために自己流のデザインで名札カードを作成しましたが、製図室での初めての作業は新鮮な雰囲気でした。その後、宿泊先へ移動し、自己紹介や授業に関する履修登録の説明、親睦イベントなどを行いました。大学では、自分で受講する授業を選択して登録しますが、進級及び卒業するためには一定の条件を満たさなければならないため、慎重に考えました。同じ時間帯に授業が重ならないようにすることや、建築学科では受講することができない授業もあり、とても複雑でした。授業を選択することが、これほど難しいとは想像

もしていなかったので驚きでした。また、オリエンテーションでの行動は数名が1組となる班行動でしたので、将来、社会に出てチームワークを活かせるようにするための訓練にもなりました。さらに、チームワーク力を試すイベントとして、玉入れにも挑戦しました。玉入れという競技はなかなか体験することが無く、「簡単だろう」と考えていましたが、いざ挑戦してみると上手く玉が入らず、公式の試合も開催されているなど奥が深い競技であることを知りました。1泊2日という短い期間でしたが、どのような方法でチームワーク力を向上させるか、どのように自己アピールをするか、など全員が能動的で、とても充実した新入生合宿オリエンテーションとなりました。

建築学科 1年 石岡 諒真

生命工学部 良き仲間と、充実した大学生活を

私たち生命栄養科学科は、「広島県立福山少年自然の家」で1泊2日の新入生合宿オリエンテーションを行いました。入学直後の行事だったこともあり、最初は楽しい気持ちより不安な気持ちの方が大きかったのを覚えています。

初日は、まず鞆の浦の「鯛匠の郷」で竹輪作り体験を行いました。魚のすり身はとても柔らかく、形成するのが大変でしたが、何とか完成させることができました。焼きあがった竹輪をみんなで食べ、自分たちで作ったからこそ特別なおいしさを味わいました。少年自然の家では、夕食後に先輩方の進行で学科紹介やチーム対抗のゲームによる交流会を行いました。箸渡しゲームでは、様々な形や重さのモノを正確に素早く箸で掴み、皿から

皿へ移す速さを競いました。お絵かき伝言ゲームでは、画伯が誕生したり、全く違う絵になったりと笑いが絶えませんでした。2日目には、少年自然の家のスタッフの指導によるレクリエーションを行いました。様々なゲーム感覚の課題を通じて、まだ話したことがない人と声を掛け合い、応援し、ハイタッチを交わすなど、一気に仲が深まったのを感じました。

2日間という短い間でしたが、当初の不安な気持ちは消え去り、とても有意義な時間を過ごすことができました。これからの4年間、共に協力し合える仲間と充実した大学生活を送っていきたいと思います。

生命栄養科学科 1年 柴田 千緩



薬学部 新入生合宿オリエンテーションに参加して



私たち薬学部の新入生151名は、遂に始まった大学生活への期待と不安の両方を抱えながら、福山市自然研修センター「ふくやまふれ愛ランド」へと向かいました。入所してすぐに、サッカーやオリエンティングなど自分たちが選択したものに分かれ、体を動かしました。お互い面識のない者同士で最初は緊張しましたが、夢中になって一緒に楽しんでいうちに仲良くなり、次に会ったときに話しかけるきっかけを得ることができました。

夕食後は、クラス別に分かれて自己紹介やゲームを行いました。自己紹介では2人1組のペアになり、自分のことではなくペアになった相手を紹介するという初めての自己紹介を行いました。ゲーム

は班に分かれてお互いに言葉を交わさず、与えられたテーマに従って1人1文字ずつ順番に文字を書き、物語を完成させるというものでした。前の人がどんな文章を作りたいか予想し、後の人に繋げることが大切なのですが、これが予想以上に難しく終わってみると笑いが出るような物語になり、とても盛り上がりました。

オリエンテーション行事のおかげで、自由時間や食事の際に少しずつ話ができるようになり、だんだんと友達が増えていきました。行く前は面倒だなと思っていましたが、終わってみると楽しい思い出ばかりで、行って良かったと思っています。

薬学科 1年 水船 大悟



「メディア情報文化学科」を「メディア・映像学科」へ学科名称変更!



学生によってデザインされたロゴマーク



バーチャルスタジオ機器もリニューアルしました

メディア情報文化学科は、平成28年度より「メディア・映像学科」へと学科名称を変更します。平成19年4月の学科設置から8年が経過しましたが、この間の情報社会の進展に伴って、メディアの役割は生活基盤の1つといえるほどに重要性が高まってきました。例えば、Facebook、Twitter、ニコニコ動画、YouTubeといった、現在はネットメディアの中で大きな存在感を持っているものでさえ、平成19年にはその名前すら知らない人も数多くいたのではないかと思います。このように、メディアは進化し続けるものであり、テレビ、新聞、本といった従来のメディアと台頭するネットメディアについて学ぶことは、人の生活や文化の未来を考えるうえで意義あることであり続けます。進化し続けるメディアについて学ぶことの重要性が増す今、従来以上に自ら学び、それを活用し、メディアの中での情報表現ができる人材を育てる必要があります。このような人材が育つよう、アクティブラーニングを取り入れ、メディア・映像学科は学びを深化させます。

学科設置時の主な教育目標は、①様々なメ

ディアやコミュニケーションに関する理論を学び、②映像やコンピュータグラフィックス(CG)などの制作実習を多角的に行うことで、③様々な分野においてメディアで表現してメッセージを的確に発信できる人材を育てることでした。この目標のもとで学んだ学生は、7年連続A Cジャパン学生CM賞の受賞、観光地のバス停デザインやポスター制作、福山、鞆の浦、尾道等の芸術祭への出展や協力、イベントのインターネット中継などすでに実績をあげています。

また、メディア・映像学科では、身につけたことを社会でも活用できるように企画や広報についても実践的に学ぶプログラムを多数用意しています。そして、これまでの学びにより磨きをかけ、コミュニケーション、映像制作、3DCGやデザイン、アニメーションなどの分野もさらに強化していきます。深化した学びで育った学生の活動によって、メディアそのものとメディアでの表現の分野で地元へ新しい変化を起こしていく「メディア・映像学科」となります。

(平成28年度学科名称の変更届出済)

メディア情報文化学科 教授 田中 始男

社会連携センター及び共同利用センターがオープン!

平成27年3月、社会連携センター及び共同利用センターが7号館に開設されました。

社会連携センターは、福山大学の教育研究活動を通して得られる知識や技術あるいは教育上のノウハウを社会に還元していく社会貢献をミッションとしており、知的財産の管理・運用を図る知財部、公開講座やリレー講座を企画する地域連携部、産官学交流の行事を展開する産学連携部及びさん・サンメルマガの発行や出張講義など高大接続行事を企画する高大連携部から構成されており、活発な事業を企画・運営してきました。また、1階には専用の部屋が設置され、専任教員も配置されました。今後は、福山市との共同事業など、ますます活発な事業を展開していく予定です。

共同利用センターは、福山大学における主要な施設設備を計画的に整備し、効率的に管理運営する教育・研究機器設備部門とICTサービス部門の2つの部門で構成されています。1階には

共同利用機器が設置され、ガスクロマトグラフィー質量分析計、高速液体クロマトグラフィー、超遠心機などの大型機器が共同利用されています。また、2階にはICTを活用した教育・研究施設として「プロジェクトラウンジ」が設置されました。これは、平成26年度の文部科学省「私立大学等教育研究活性化整備事業」で採択された事業で整備されたもので、自分未来創造室、ICT教室CLAFIT、附属図書館ラーニングcommonsと連携して、なりたい自分になるための「自分創造プロジェクト」を学部・学科の垣根を越えた学生が自主的に集まって推進していくための施設です。すでに、多くの学生が夜遅くまで利用しています。

このように、7号館に開設された社会連携センター及び共同利用センターから福山大学の新しい教育・研究・社会連携事業が次々に生み出されていくことでしょう。

薬学部 教授 田村 豊



平成27年度 市民フォーラム「食と健康のライフサイエンス」開催!



生命栄養科学科は、福山市や尾道市、全国の栄養士関係機関などと協力しながら、食を通じて健康を維持、向上させるための情報を継続的に発信しています。本フォーラムは、その一環として平成20年以来、毎年開催し、8年目になります。栄養士や食品関連企業などの専門職も含めて、毎回定員を満了参加をいただき、好評をいただいております。平成27年度も深い内容をわかりやすくお話しすることに努めます。

第1回の6月13日(土)は、定員の100名を満了参加をいただきました。一般の方から「脳を動かすことでダイエットできるのでは?」といった質問も出る熱心な講演会となり、協力学生への刺激にもなりました。村上泰子准教授は、平成27年度より使用開始となった「日本人の食事摂取基準(2015年版)」を軸に、「低炭水化物食の危険性」、「食後高血糖の改善における

食物繊維の摂取の目安」、「日本人の食塩過剰摂取の実態と減塩の目標量」など、私たちが普段、テレビなど見聞きする情報を交えながら栄養素と健康について、わかりやすく解説しました。菊田安至教授は、「ごはん(糖質)がATPを経てエネルギーになる仕組み」、「ごはんがエネルギーとして使い易い形のグリコーゲンとして蓄えられるのはごくわずかで、残りは脂肪として蓄えられること」、「インスリンが血糖値を下げるのは、インスリンが糖を脂肪にし、脂肪組織へ蓄積することに起因すること」、「人はどこまで太ることが可能か」など、ユーモアを交えて話し、食事摂取と運動を絡めた良い生活習慣を勧めました。

第2回も多くの方のご来場をお待ちしています。

生命栄養科学科 教授 山本 英二

第1回【食が身につく】6月13日(土)14:00~16:00

第2回【口は幸いの元】11月15日(土)14:00~16:00

●定員:各100名

●場所:学校法人福山大学宮地茂記念館

①「身になる栄養の話」生命栄養科学科 村上 泰子 准教授 ②「ご飯が脂肪になるには」生命栄養科学科 菊田 安至 教授

①「食事を噛んで健康に」生命栄養科学科 久保田 みどり 准教授 ②「広島食の文化論」生命栄養科学科 木村 安美 教授

③平成27年度市民フォーラム「食と健康のライフサイエンス」修了式

第15回 福山大学生命工学部公開授業が始まりました!

生命工学部では、ビジネス交流会：福山未来(福山バイオビジネス交流会)との共催で、今年も15回目の公開授業を行います。今回は、全体テーマを「生きるかがやき」と題し、「食に関わる身近な科学」を本学部独自の切り口からアプローチした講義と実験を企画しています。生命工学部の教育・研究が我々の身近な生活に密接に関係していることを知ってもらい、これからの社会に対して大きな可能性をも提供する学術分野であることを理解してもらいたいというのが、今回の大きな目的です。第1回は6月13日(土)に学校法人福山大学宮地茂記念館で、市民フォーラムとの共催で行われました。サブタイトルとして「食が身につく」と題し、生命栄養科学科の村上泰子准教授による「身になる栄養の話」と同学科の菊田安至教授による「ご飯が脂肪になるには」と題した講演が行われました。両講師とも、私たちが普段何気なく口にしている食べ物が体内でどのように代謝される

のかを、豊富な実例とともにわかりやすく解説され、受講された皆さんも熱心に聞き入っていました。参加人数もおおよそ100名で、盛況の内に終わることができました。また、第2回も7月11日(土)に福山市ものづくり交流館で、生物工学科の山本覚教授による「ワインプロジェクトに関するお話!」と海洋生物科学科の藤井啓子助手による「アオコ大発生 of 不思議」という題目で講演が行われました。さらに、第3回は7月25日(土)に本学で公開実験を行います。今年度も一般とキッズの垣根を取り払い、6テーマを用意しています。また、この事業の一部は、公益財団法人マツダ財団の第31回マツダ事業助成にも採択され、その支援を受けています。参加費はすべて無料ですので、是非、皆様ご来場ください。

詳しくは、学部のHP (<http://www.fukuyama-u.ac.jp/life/>)に掲載しています。

生物工学科 教授 原口 博行



平成27年度 福山大学教育懇談会について

福山大学では、開学以来毎年、教育懇談会を開催しています。

この教育懇談会では、保証人の皆様に本学の近況をお知らせするとともに、教育理念や指導方針、学生生活や就職についてもご説明させていただいております。全体説明後、個別懇談においてご子女の学業成績や履修・出席状況等をお伝えし、保証人の皆様のご質問・ご相談にお答えしています。

本年度は、本学(福山大学)会場の他に、15の会場で開催いたします。さらに、本学会場では、保証人の皆様を対象とした就職講演会も予定しています。詳細は、7月上旬に「教育懇談会の開催について(ご案内)」を送付いたしました。ご確認の上、同封の返信用はがきにてご欠出をお知らせください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

学務部 教務課

開催日	開催地	会場名	対象学部
9月8日(火)	広島	広島ガーデンパレス	全学部
9月8日(火)	沖縄	ホテルサンパレス球陽館	全学部
9月8日(火)	鳥取	白兔会館	全学部
9月8日(火)	高知	高知共済会館コミュニティスクエア	全学部
9月9日(水)	山口	山口グランドホテル	全学部
9月9日(水)	松江	松江エクスセルホテル東急	全学部
9月9日(水)	高松	高松東急REIホテル	全学部
9月9日(水)	鹿児島	ホテルセントコスモ	全学部
9月9日(水)	神戸	ホテル北野プラザ六甲荘	全学部
9月9日(水)	東京	東京ガーデンパレス	全学部
9月10日(木)	岡山	メルパルク岡山	全学部
9月10日(木)	松山	ホテルサンルート松山	全学部
9月10日(木)	福岡	福岡ガーデンパレス	全学部
9月10日(木)	大阪	大阪ガーデンパレス	全学部
9月10日(木)	名古屋	名古屋ガーデンパレス	全学部
9月12日(土)	福山	福山大学	経済学部(3・4年生)、生命工学部薬学部(学生番号：偶数)
9月13日(日)	福山	福山大学	経済学部(1・2年生)、人間文化学部工学部、薬学部(学生番号：奇数)

※9月12日(土)・13日(日)では、都合が悪い場合、どちらに出席されても構いません。

平成27年度 福山大学学生表彰について

5月22日(金)、大学会館にて平成27年度福山大学学生表彰(在学生)の表彰式が行われました。今回は、学業部門35名が表彰(奨励賞)されました。受賞者は、右記のとおりです。表彰式では、松田文子学長からの挨拶に続いて、受賞者を代表して薬学部薬学科4年の野村彰一さんが、受賞の喜びと御礼の言葉を述べました。受賞された皆さん、おめでとうございます。

学務部 学生課

薬学部	
薬学科	2年 田口 絵梨
薬学科	3年 藤岡 奈緒美
薬学科	4年 野村 彰一
薬学科	5年 落合 博之

経済学部	
経済学科	2年 横山 岳聖
経済学科	3年 濱田 翔平
国際経済学科	3年 植木 理歩
税務会計学科	3年 伊勢村 恵
経済学科	4年 三浦 裕也
国際経済学科	4年 郭 月
税務会計学科	4年 内海 亮太

人間文化学部	
人間文化学科	2年 吉川 万葉
心理学科	2年 栗原 希実
メディア情報文化学科	2年 松本 真依
人間文化学科	3年 玉井 恵子
心理学科	3年 藤田 志織
メディア情報文化学科	3年 柴田 翔也
人間文化学科	4年 村上 栞
心理学科	4年 川崎 琴恵
メディア情報文化学科	4年 佐藤 大輔

工学部	
建築学科	2年 中村 晋作
情報工学科	2年 服部 真和
機械システム工学科	2年 明石 修
情報工学科	3年 平上 尚紀
建築・建設学科	4年 平山 真文
情報工学科	4年 奥田 宏平

生命工学部	
生物工学科	2年 横山 ななみ
生命栄養科学科	2年 宮上 紗希
海洋生物科学科	2年 篠原 なほ子
生物工学科	3年 平島 宗一郎
生命栄養科学科	3年 田島 幸司
海洋生物科学科	3年 吉川 颯
生物工学科	4年 稲森 千章
生命栄養科学科	4年 神波 景子
海洋生物科学科	4年 長尾 朋樹

平成27年度 科学研究費助成事業

◆ 研究種目

研究代表者氏名	所属	職名	交付金額
研究課題			

◆ 基盤研究C

青野 篤子 人間文化学部 教授	70万円	大塚 豊 大学教育センター 教授	100万円
男女平等意識の継承に関する研究：母親と娘の「語り」を通して		中国の対外言語教育政策に関する研究 — 孔子学院の世界展開を中心に —	
日下部典子 人間文化学部 教授	50万円	服部 進 工学部 教授	140万円
広島県における妊産婦を対象としたうつ予防のためのプログラムの実施と効果の検証		UAVを使った狭い範囲の図化システムの開発	
尾関 孝史 工学部 教授	60万円	池岡 宏 工学部 講師	140万円
電子ノートシステムの提案とその導入効果の検証に関する研究		アオリ光学系を用いた車載用周囲監視システムのための距離推定	
石井香代子 生命工学部 准教授	30万円	藤田泰太郎 生命工学部 教授	170万円
新調理システムを用いた介護食の品質評価		枯草菌の緊縮転写制御ネットワークの先導的基盤研究とその活用	
張 楓 経済学部 准教授	50万円	井ノ内直良 生命工学部 教授	180万円
戦後地方工業集積のダイナミックな展開に関する基礎的研究—家具産業を事例に—		高アミロース米の炊飯米と胚乳澱粉の特性解明に関する研究	
日野恵美子 経済学部 准教授	30万円	町支 臣成 薬学部 教授	140万円
転地と経営者 アウトサイダー度のスペクトラム		マイクロ波を活用した縮合複素環天然物類の全合成と創薬標的分子の創生	
平 伸二 人間文化学部 教授	130万円		
視覚・聴覚同時呈示法を用いた事象関連電位による虚偽検出			

◆ 挑戦的萌芽研究

赤澤 淳子 人間文化学部 教授	120万円	山口 泰典 生命工学部 教授	100万円
児童養護施設入所児の学力向上を目指した個別学習支援プログラムの開発		哺乳類ひげ毛根細胞の凍結保存・iPS細胞化・生殖細胞分化・体外受精	
佐藤 圭一 工学部 教授	100万円		
生活用水供給システムの変遷からみた熊本地域の居住空間形成			

◆ 若手研究B

川人 潤子 人間文化学部 講師	90万円	渡辺 伸一 生命工学部 准教授	120万円
知能に応じた自己複雑性介入プログラムの効果の検討		ナルトピエイの行動計測による二枚貝類等の食害防除対策と沿岸生態系への影響評価	
瀬尾 誠 薬学部 講師	140万円	高阪 勇毅 経済学部 講師	100万円
脂肪肝形成抑制効果を有するいんげん豆抽出物中の生理活性成分の同定と有効性の検証		株式分割実施が流動性に与える効果の実証—流動性が改善する銘柄属性と要因の解明—	
片寄 真衣 生命工学部 助手	80万円	中道 上 工学部 准教授	100万円
食品由来の脂質代謝酵素による機能性脂質の産生と調理の効果		協調学習のための直観的なスマートインタラクション環境に関する研究	
堤 広之 薬学部 講師	60万円		
茶ガレート型カテキン類を用いた不斉認識機構の解明			

◆ 研究活動スタート支援

都祭 弘幸 工学部 教授	100万円
アーチ形ダンバーの履歴性状に関する基礎的研究	

◆ 研究成果公開促進費<学術図書>

川人 潤子 人間文化学部 講師	70万円
自己複雑性を高める介入プログラムの抑うつ低減効果	

第8回「友だちにすすめたい本」コンクール



人間文化学科が、平成20年度より開催している「友だちにすすめたい本」コンクールも、今年で8回目を迎えます。

近隣の高校をはじめとして他県の高校からも応募があり、着実にこの企画が根付いてきているようです。これも応援してくださっている高校の先生方のご協力があればこそで、この場を借りて感謝の意を表するとともに、さらなるご支援をよろしくお願いいたします。

今年も、友だちが是非その本を手にとりて読みたくなるような熱い感動を伝えてくれる力作を期待しています。奮ってご応募ください。

人間文化学科 教授 原 千史

コンクールの概要

- 本の対象：小説、エッセー、童話、詩などジャンルを問いません。 ●応募資格：高校生 ●応募方法：所定の原稿用紙に500字以内(人間文化学科HPからダウンロードできます)
- 審査委員：丹藤浩二(福山大学客員教授、審査委員長)、青木美保(福山大学教授、福山大学図書館長)、岩崎文人(ふくやま文学館館長、広島大学名誉教授)、光原百合(作家、尾道市立大学教授)
- 表彰：最優秀賞1篇 賞状・トロフィー・副賞/優秀賞3篇 賞状・副賞/佳作賞10編 賞状・副賞
- 発表：在籍校を通じて本人宛に通知し、平成28年1月下旬(予定)に表彰式を行いません。 ●応募期間：平成27年7月1日(火)から9月12日(土)まで(消印有効)
- 応募先：tomodachi@fuhc.fukuyama-u.ac.jp(メール添付にて応募される場合) CD-R(原稿データ)もしくは紙原稿を郵送される場合は、下記住所まで 〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵 福山大学人間文化学部人間文化学科「友だちにすすめたい本」コンクール係
- お問合せ：tomodachi@fuhc.fukuyama-u.ac.jp 脇 忠幸(福山大学講師)084-936-2111(内線3239)、人間文化学部事務局 084-936-2112(内線2223)

「第10回 高校生CMコンテスト2015」募集開始!

メディア情報文化学科では、映像メディアに対する高校生の豊かな感性を開花させ、その才能を支援することを目的として「第10回高校生CMコンテスト2015」を開催します。

今年のテーマは「あなたの『まち』を、全国にアピールしよう!」です。地域の魅力で人をひきつけ、そのまちに行きたくなるようなCMを考えてください。

ビデオで撮影・編集した作品を応募する「映像作品の部」は、授業や部活動などで身につけた力を示す好機になるでしょう。絵コンテに企画をまとめる「企画コンテの部」や、地域の魅力を短いフレーズに凝縮する「広告コピーの部」は、映像制作の設備を持っていない学校でも気軽に参加できる部門です。なお、昨年

から設けた「写真作品の部」は、1枚の写真というとてもシンプルな世界で魅力を伝えることへのチャレンジです。昨年は、合計471点の力作が集まりました。昨年を超える新しい才能をお待ちしております。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

は、ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/>

また、サイトに加えて学科のブログでもコンテストに関する情報を、随時発信していきます。審査には、本学の教員に加え、テレビや映画の世界で活動するプロフェッショナルの映像クリエイターを複数名お招きします。今年度は<学科名称変更記念>として、新たなかたち



「第9回高校生CMコンテスト2014」受賞式

での受賞作品の紹介も企画・準備中です。どうぞ、ご期待ください。

お問い合わせは、人間文化学部事務局 TEL.084-936-2112(内線2223)、もしくは info@fukuyama-media.jp まで。

メディア情報文化学科 准教授 安田 暁

第5回 高校生アイデアどんぶり選手権



昨年の実技審査の様子



第4回最優秀賞
「ヘルシーささみのネバネバ丼、もやしときゅうりの塩昆布和え」

選手権の概要

- 募集料理：どんぶり物(洋風・和風・中華風)と、どんぶり物に合うもう1品(副菜、汁物、デザートなど)の計2品 ●対象：広島県内及び近県に住んでいる高校生 ●応募締切：平成27年6月26日(金) ●実技審査：平成27年8月6日(木) ●表彰：最優秀賞(1名) 賞状・副賞、優秀賞(2名) 賞状・副賞、審査員特別賞(2名) 賞状・副賞、第1次審査入選賞(11名) 賞状・副賞、参加賞(全員) 粗品 ●応募方法：所定の応募用紙に必要事項を記入し、下記宛先まで郵送にてお送りください。 〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵 福山大学工学部・生命工学部事務室内「第5回 高校生アイデアどんぶり選手権」係

生命栄養科学科では、第5回目となる「高校生アイデアどんぶり選手権」を実施します。高校生の皆さんが食と健康に関心を持ち、自分たちの住んでいる地域の様々な食材を使って「楽しく」「美味しく」栄養のことや料理のことを考えてみることを目的としています。

出品されたどんぶり物と、どんぶり物に合うもう1品の計2品のレシピと写真を審査(第1次審査:書類審査)し、16名の入選者に8月6日(木)に第2次審査(生命栄養科学科の調理室における実技審査)を行い、最優秀賞等を決定します。昨年は、156件の応募の中から「ヘルシーささみのネバネバ丼、もやしときゅうりの塩昆布和え」が最優秀賞に選ばれました。入賞作品の一部は、第1食堂で期間限定メニューとして登場する予定です。今年も多くの方の応募をいただき、現在、第1次審査中です。

詳細は、学科のホームページをご覧ください。

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/nutritional-sci/original/entry-2117.html>

生命栄養科学科 准教授 高橋 知佐子

学友会 短 信

【サッカー部】

- 4月19日～11月8日 2015年度中国大学サッカーリーグ出場
- 5月17日～31日 2015年度中国大学サッカー選手権兼総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント大会中国地域予選大会準優勝
- 6月28日～7月12日 2015年度全広島サッカー選手権大会決勝大会出場

【硬式野球部】

- 4月4日～5月24日 平成27年度中国六大学野球春季リーグ戦出場

【陸上競技部】

- 3月14日 第39回全日本競歩能美大会兼第9回日本学生20km競歩選手権大会出場:清家将徳(経済学科3年)
- 4月11, 18日 2015年度広島県国体強化記録会出場(4名)
- 5月15日 第69回中国四国学生陸上競技対校選手権大会出場(14種目11名)
- 6月6日 第48回広島県学生陸上競技選手権大会出場 走高跳第1位:石井嵩人(海洋生物科学科1年)

【剣道部】

- 5月17日 第62回中四国学生剣道選手権大会兼第47回中四国女子学生剣道選手権大会出場
- 5月23日～24日 第60回西日本学生剣道大会兼第30回西日本女子学生剣道大会出場

【卓球部】

- 5月21日～24日 第66回中国学生

卓球選手権春季大会出場

【柔道部】

- 5月16日～17日 平成27年度中国四国学生柔道優勝大会(男子61回,女子22回)出場

【弓道部】

- 4月11日～12日 第48回中国学生弓道競技大会出場
- 5月17日 福山ばら祭協賛第36回福山市近県弓道大会出場

【バスケットボール部】

- 4月11日～7月18日 2015年度広島県学生バスケットボール春季リーグ戦出場

【硬式庭球部】

- 5月16日～19日 平成27年度春季中国四国学生テニス選手権(予選)大会出場

【軟式野球部】

- 6月15日～19日 平成27年度西日本地区学生軟式野球春季Ⅱ部リーグ戦出場

【フットサル部SeRa】

- 5月16日 第11回全日本大学フットサル広島県大会出場 結果,第2位にて中国大会出場権獲得

【YRC(ボランティア)部】

- 5月16日～17日 第48回福山ばら祭2015参加(中央公園他出店)
- 定期清掃活動クリーンウォーキングJ R松永駅・J R福山駅・芦田川(月3回)

【海洋生物研究会】

- 6月7日 第6回フィッシング大会 学友会執行部と共催

【管弦楽団】

- 5月2日 薬学部白衣授与式BGM演奏

【吹奏楽部】

- 6月6日 第8回はたるの夕べ参加(本郷川河川敷にて今津学区まちづくり推進事業)

【チアダンス部(スパーキー)】

- 4月17日 カーブ戦福山スペシャルデー参加(カーブ試合5回インターバルイベント)

【留学生会】

- 5月15日 福山大学留学生歓迎交流会開催

【学友会執行部】

- 5月16日 東村町春の交通安全活動参加(福山大学入口交差点において,東村町,本郷駐在,福山大学学友会の3者連携活動)
- 5月15日 春季学長杯争奪競技大会(ソフトボールの部,ソフトバレーボールの部)
- 5月27日 春季献血活動実施
- 6月6日 第6回フィッシング大会主催
- 学友会サークル新規承認について(平成26年12月4日付学生委員会承認)フットサル部SeRa顧問:人間文化学科 教授 原 千史 留学生会顧問:経済学科 教授 李 森
- 学友会サークル同好会から部に昇格(平成27年4月24日付学生委員会承認)Light Music Club顧問:人間文化学科 教授 重迫 隆司

学友会 第6回フィッシング大会

学友会執行部及び海洋生物研究会主催「第6回福山大学フィッシング大会」が、6月7日(日)に因島で開催されました。今回は、「釣り具のタイム」さんからの協賛もあり、例年よりも多くの参加者を募ることができました。本学附属の内海生物資源研究所(マリンバイオセンター)での見学後、大会



会場に移動し開会式を行いました。釣りは、餌のゴカイに戸惑いながらも思い思いの釣りを楽しんでいました。今回の大会は得点方式で行ったため、サヨリやアイナメなど得点の高い魚を釣る人が多く、上位の得点争いが接戦となりました。また、今回の大会ではコウイカが釣れ、特別賞にも選ばれました。大会終了後は海辺の清掃を行い、閉会式と受賞式後、帰路に着きました。今回の大会では、海洋生物研究会顧問の水上雅晴講師や学生課職員の皆様のご協力だけでなく、釣り具のタイムさんの協賛もあり、学生の参加者も増えて活気に満ちた大会になりました。これからも様々な行事を企画・実行していこうと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

生物工学科 2年 児玉 雅幸

学友会春季学長杯争奪競技大会(FUS)



開学記念日(5月15日(金))に、恒例の春季学長杯争奪競技大会が開催され、学生及び教職員合わせて約260名が参加しました。前日は心配されていた天気でしたが、当日は晴天に恵まれました。野球場ではソフトボール、体育館ではソフトバレーボールの試合が行われました。

今回、初めての競技となるソフトバレーボールは、参加者にも楽しんでもらうことができ良かったです。また、怪我や事故等もなく、親睦を深めることができました。

次回の秋季学長杯争奪競技大会にも、たくさんの方々の参加をお待ちしております。

海洋生物科学科 2年 太田 考桓

国際交流瓦版

2014年

10月23日

◆(公財)熊平奨学文化財団奨学生との交流会上に、李森国際センター留学生部長と奨学生の譚涛さん(経済学研究科/2年/中国)が出席。

10月26日

◆外国人留学生を支援する会、ふくやま国際交流協会共催のインターナショナル秋祭り2014年スポーツ大会が開催され、11名の留学生が参加。



11月5日

◆神石高原町立神石小学校で、宋辰宇さん(経済学科/4年/中国出身)が母国紹介等で交流。

11月13日

◆馮曉宇さん(経済学科/2年/中国出身)が、平成26年度後期(公財)ひろしま国際センター渡日等留学生支援に係る奨学生に決定。

11月26日

◆(公財)ひろしま国際センター第2回奨学生との交流会上に、李森国際センター留学生部長とともに、劉暢さん(国際経済学科/4年/中国出身)ら4名が出席。

11月29日

◆国際センター留学生部主催の秋インターナショナルイベントツアー〜ツネイシホールディングス及び倉敷科学センター見学〜に、姚莉萍客員教授ら2名の教員と31名(留学生21名、日本人学生10名)の学生が参加。



12月3日

◆豪州・ジェームスクック大学よりHeather Parris-Kidd国際室長が来学され、当大学を紹介。教職員及び学生合計44名が参加。



2015年

1月31日

◆中国・煙台職業学院韓国語(技術)学院との自費留学生共同募集に関する協定を解除。

2月4日

◆陳俐珊さん(心理学科/2年/中国出身)が、(公財)ロータリー-米山記念奨学会の平成27年度奨学生に決定。

2月18日

◆楊少芳さん(国際経済学科/2年/中国出身)ら7名が、尾道高等学校で修学旅行の事前学習として中国語の授業。



2月20日

◆大浦翔太さん(人間文化学科/3年)が、本学協定校であるブルガリア・ソフィア大学へ1年間の交換留学のため、出発。

2月22日~3月7日

◆山城千尋さん(税務会計学科/3年)ら2名が、韓国・建国大学校ウィンタープログラムに参加。

2月22日/25日

◆外国人留学生を支援する会主催の「外国人留学生による日本語スピーチコンテスト」に、本学留学生が2名参加し、ゲオルギ・ディミトロヴ・コルチャゴヴさん(メディア情報文化学科/交換留学生/ブルガリア出身)が優秀賞を獲得。演題は、「運命のコイン投げ」。趙建紅国際センター留学生副部長とトロフィーを持って、松田文子学長に報告。



2月24日

◆呂婷さん(国際経済学科/3年/中国出身)ら3名が、福山市立引野小学校で母国紹介等で国際交流。

3月18日

◆本学協定校である中国・対外経済貿易大学へ半年間交換留学をした村上葉さん(人間文化学科/3年)と韓国・建国大学校での短期ウィンタープログラムに参加した山城千尋さん(税務会計学科/3年)ら2名が、学長室で帰国報告。



3月23日

◆洲崎真那さん(建築・建設学科/3年)が、本学協定校であるブルガリア・ソフィア大学での半年間の交換留学を修了し、学長室で帰国報告。



4月1日

◆中国・延辺大学と本学との間の学術教育協定を締結。

◆米国・カリフォルニア大学リバーサイド校及び中国・首都師範大学との学術教育交流協定を更新。

4月3日

◆平成27年度入学式が挙行され、学部留学生26名、大学院留学生4名が入学。

4月20日

◆李姬さん(経済学研究科/1年/中国出身)ら2名が、平成27年度(公財)八幡記念英奨学会の奨学生に採用決定。

4月21日

◆郭玥さん(国際経済学科/4年/中国出身)ら2名が、平成27年度(公財)熊平奨学文化財団の奨学生に採用決定。

5月14日/15日

◆福山ばら祭りの国際交流行事に、洲崎真那さん(建築・建設学科/4年)ら3名が参加。ブルガリアのばらの女王等と交流。



5月15日

◆福山大学留学生会主催の新入留学生歓迎行事を学生会館フーズカフェで開催し、日本人学生を含めた在学学生及び教職員と交流。



学務部 国際交流課

学内人事

【名誉教授称号授与】

前 経済学部 教授 井上 矩之
 前 人間文化学部 教授 千葉 利晃
 前 工学部 教授 栗延俊太郎
 前 工学部 教授 清水 光
 前 薬学部 教授 日比野 侗
 前 薬学部 教授 塩見 浩人
 (以上4月1日付)

【役職関係】

◎再任
 学長 松田 文子
 (4月1日付)

◎就任

学長補佐 大塚 豊
 学長補佐(入試担当) 富田 久夫
 人間文化学部長 平 伸二
 工学部長 香川 直己
 生命工学部長 井ノ内直良
 薬学部長 鶴田 泰人
 人間科学研究科長 青野 篤子
 工学研究科長 占部 逸正
 薬学研究科長 森田 哲生
 経済学部長補佐 平田 宏二
 経済学部長補佐 尾田 温俊
 工学部長補佐 尾関 孝史
 経済学科長 早川 達二
 人間文化学部長 重迫 隆司
 心理学科長 橋本優花
 生命栄養科学科長 菊田 安至
 薬学科長 田村 豊
 薬学科長(実務教育担当) 佐藤 英治
 附属図書館館長 井上 敦子
 大学教育センター長 大塚 豊
 大学教育センター副センター長 田村 弘幸
 社会連携センター副センター長 都祭 博行
 国際センター長 岩本 博行
 国際センター副センター長 許 霽
 キャリア形成支援委員会委員長 足立 浩一
 キャリア形成支援委員会副委員長 久富 泰資
 教務委員会副委員長 脇 忠幸
 教務委員会副委員長 石津 隆
 教職課程委員会副委員長 岡 晃弘
 学生委員会委員長 金丸 純二
 学生委員会副委員長 田中 哲郎
 入試委員会副委員長 赤澤 淳子

大学入試センター試験実施委員会委員長 北口 博隆

学術研究倫理審査委員会委員長 太田 雅也
 ワークライフ支援室長 山口 泰典
 松永駅前活性化プロジェクト委員会委員長 杉原 成美

ワイン醸造所長 秦野 琢之
 吉崎 隆之
 (以上4月1日付)

教職課程委員会副委員長 山東 資子
 (4月10日付)

◎退任

人間文化学部長 青野 篤子
 生命工学部長 秦野 琢之
 人間科学研究科長 橋本優花
 工学部長補佐 香川 直己
 心理学科長 平 伸二
 生命栄養科学科長 井ノ内直良
 薬学科長 森田 哲生
 附属図書館館長 田村 豊
 大学教育センター副センター長 大塚 豊
 大学教育センター副センター長 平 伸二
 社会連携センター副センター長 三輪 泰彦
 国際センター長 富士 彰夫
 国際センター副センター長 岩本 博行
 キャリア形成支援委員会委員長 久富 泰資
 キャリア形成支援委員会副委員長 足立 浩一
 教職課程委員会副委員長 重迫 隆司
 学生委員会委員長 菊田 安至
 入試委員会副委員長 金丸 純二
 大学入試センター試験実施委員会委員長 井ノ内直良

大学入試センター試験実施委員会副委員長 北口 博隆
 (以上3月31日付)

教職課程委員会副委員長 岡 晃弘
 (4月9日付)

【教員】

◎定年退職

経済学部 教授 泉 潤慈
 経済学部 准教授 中村 博
 工学部 教授 三宅 雅保
 工学部 教授 占部 逸正
 生命工学部 教授 石崎由美子
 薬学部 教授 吉富 博則
 薬学部 教授 富長 将仁
 薬学部 教授 鶴田 泰人
 (以上3月31日付)

◎辞職

経済学部 准教授 相原 正道
 経済学部 准教授 塚原一郎義治

経済学部 准教授

工学部 教授 増澤 拓也
 工学部 教授 栗延俊太郎
 生命工学部 助教 清水 光
 薬学部 講師 中谷 嘉子
 土谷 大樹
 (以上3月31日付)

◎再雇用期間満了

経済学部 教授 平田 宏二
 経済学部 教授 井上 矩之
 人間文化学部 教授 千葉 利晃
 薬学部 教授 日比野 侗
 薬学部 教授 塩見 浩人
 (以上3月31日付)

◎任期満了

人間文化学部 教授 三浦 省五
 人間文化学部 教授 西田 正
 工学部 教授 南 宏一
 工学部 教授 尾島 勝
 工学部 教授 鎌田 輝男
 工学部 教授 上野谷 実
 工学部 教授 梅田眞三郎
 工学部 教授 齋藤 展
 生命工学部 教授 湖上 倫子
 薬学部 助手 井手 法慧
 丹藤 浩二
 山口 昌宏
 Laura A. Kurotobi
 (以上3月31日付)

◎死亡

薬学部 教授 大橋 一慶
 (6月2日)

◎昇任

人間文化学部 教授 重迫 隆司
 工学部 准教授 伍賀 正典
 工学部 准教授 藤原 光二
 工学部 准教授 崎崎 光二
 生命工学部 准教授 村上 泰子
 薬学部 教授 井上 裕文
 薬学部 准教授 上敷 淳
 薬学部 講師 堤 広之
 国際センター 准教授 趙 建紅
 (以上4月1日付)

◎配置換(助手→助教)

生命工学部 助教 桑田 寛子
 (4月1日付)

◎配置換

人間文化学部 准教授 米崎 里
 共同利用センター 准教授 鶴崎 健一
 共同利用センター 助教 片桐 重和
 社会連携センター 助教 中村 雅樹
 (以上4月1日付)

◎兼任

(兼)工学部 助教 中村 雅樹
 (兼)工学部 助教 片桐 重和
 (兼)大学教育センター 教授 重迫 隆司
 (兼)大学教育センター 准教授 鶴崎 健一
 (兼)大学教育センター 准教授 米崎 里
 (兼)大学教育センター 准教授 趙 建紅
 (兼)大学教育センター 講師 清水 洋子
 (兼)共同利用センター 助教 前田 吉広
 (兼)共同利用センター 助教 中村 雅樹
 (兼)安全安心防災教育センター 教授 都祭 弘幸
 (兼)安全安心防災教育センター 助教 中村 雅樹
 (以上4月1日付)

◎採用

経済学部 教授 平田 宏二
 経済学部 講師 高阪 勇毅
 経済学部 講師 藤本 浩由
 経済学部 講師 石井 孝和
 経済学部 助教 中村 和裕
 経済学部 助教 藤本 倫史
 人間文化学部 教授 山川 廣司
 人間文化学部 教授 中嶋 健明
 工学部 教授 仲嶋 一
 工学部 教授 佐藤 圭一
 工学部 教授 山之上 卓
 工学部 教授 金子 邦彦
 工学部 准教授 菅原 聡
 工学部 准教授 佐々木伸子
 工学部 准教授 関根 康史
 工学部 講師 池岡 宏
 生命工学部 教授 生嶋由美子
 生命工学部 准教授 久保田みどり
 生命工学部 助手 久保田結香
 生命工学部 助手 鶴田 泰人
 薬学部 教授 瀬尾 誠
 薬学部 講師 坂根 洋
 薬学部 助手 高田 千明
 薬学部 助手 藤村よしの
 竹田 沙記
 Lowes Jason
 津田 将行
 Tang Warren
 (以上4月1日付)

◎再採用

経済学部 教授 泉 潤慈
 経済学部 准教授 中村 博
 工学部 教授 三宅 雅保
 工学部 教授 占部 逸正
 工学部 教授 鶴崎 展
 薬学部 教授 吉富 博則
 薬学部 教授 富長 将仁
 (以上4月1日付)

◎特命講師

大学教育センター 山口 昌宏
 (4月1日付)

◎客員教授

経済学部 田中 秀征
 経済学部 平山 亮
 工学部 横井 一仁
 生命工学部 宮崎 信之
 生命工学部 高田 浩二
 薬学部 村上 信行
 薬学部 大演 修
 薬学部 太刀掛 稔
 薬学部 菅 奈奈美
 大学教育センター 丹藤 浩二
 大学教育センター 木曾 功
 (以上4月1日付)

◎客員教員(教授待遇)

経済学部 賈 保華
 (4月1日付)

◎北京教育研究センター顧問

佐藤 利行
 (4月1日付)

◎学校法人福山大学宮地茂記念館館長

尾島 勝
 (4月1日付)

【職員】

◎昇任

入試広報主管(部長待遇) 松岡 哲衛
 (兼)入試広報室長
 (兼)学校法人福山大学入試広報室長
 学務部副部長(国際交流担当) 阿南 達子
 (兼)国際交流課長
 (兼)学生課長事務取扱 坂本 真紀
 入試広報室室長補佐
 (兼)学校法人福山大学入試室室長補佐 小林圭二郎
 企画・文書課長補佐 楠見 宣昭
 経済学部・人間文化学部事務長補佐 岡田 祐博
 薬学部事務長補佐 大迫 博美
 庶務課庶務係長 栗根 智恵
 経理課経理係長 片山 友数
 経理課経理企画係長 貞壁 史江
 教務課教務係長 大谷 恭子
 附属図書館総務係長 大谷 栄俊
 秘書室秘書主任 (兼)学校法人福山大学秘書室総務主任 門利有樹子
 用度課用度主任 前原 隆司
 学生課学生主任 (以上4月1日付)

◎配置換

企画・文書課長 徳永 充孝
 工学部・生命工学部事務長 村上 高士
 学生課専門員 藤原 紀子
 庶務課庶務主任 蔵田 修
 企画・文書課事務職員 三浦 真希
 教務課事務職員 岡野 浩己
 (以上4月1日付)

◎兼務

(兼)学校法人福山大学総務部長 蘭頭 里美
 (兼)学校法人福山大学総務部財務課長 (4月1日付)

◎免兼務

(兼)学校法人福山大学総務部長事務取扱 鈴木 省三
 (3月31日付)

◎採用

学校法人福山大学参与 大谷 巖
 (兼)福山大学参与
 常勤監事 安保 昇
 入試広報室参事 児玉 英史
 (兼)学校法人福山大学入試広報室参事 的場 千尋
 入試広報室事務職員 (兼)学校法人福山大学入試広報室事務職員 安藤 拓人
 工学部・生命工学部事務室事務職員 村上 翠
 薬学部事務室事務職員 村上 司
 学生課課長補佐 吉津 和輝
 教務課事務職員 池田 昂太
 就職課事務職員 高丸 有美
 附属図書館事務職員 高原 美貴
 附属図書館事務職員 久谷 貴二
 入試広報室参事 (兼)学校法人福山大学入試広報室参事 前原 幸三
 入試広報室参事 (兼)学校法人福山大学入試広報室参事 大本 和英
 工学部・生命工学部事務室参事 岡田 啓司
 学務部長 (兼)就職課就職主管 羽原 哲也
 学校法人福山大学総務部(事務嘱託員) 光波祥二郎
 社会連携センター事務室長(事務嘱託員)
 (兼)社会連携センター参事
 (兼)学校法人福山大学宮地茂記念館事務室長
 (兼)学校法人福山大学宮地茂記念館参事
 (以上4月1日付)

桑原哲也先生のご逝去を悼んで

平成26年10月14日死去

桑原先生は、平成26年10月14日(火)に67歳でご逝去されました。早すぎるお別れでした。桑原先生と私は、京都産業大学で15年、神戸大学で15年、そして福山大学で3年と合計33年の付き合いでした。桑原先生は、常に私の近くにいる兄のような存在で、せっかちで慌てる傾向のある私をいつも笑顔で「そんなことは、どうでもいいんですよ。」と独特のイントネーションで諭してくれました。先生は生来の前向きな明るい性格で、大学やご自身の研究計画について楽しそうに語っておられました。その様は、今でもありありと思い出されます。

先生は神戸大学を退職された後、平成22年4月に福山大学経済学部税務会計学科教授に着任されました。翌23年には経済学部長補佐を務められ、続く平成24年から25年には税務会計学科長の任にありました。先生は、若い学者の研究を温かく見守り、経済学部における指導的研究者の役割を果たしておられました。平成25年にはご病気を得られましたが、それを感じさせない自然な振る舞いでした。むしろ、傍らから見る者の方がうろたえていたように思います。

また、先生は着任当初から、備後地域の産業集積の高さに魅了されて、備後地域の企業経営の研究に着手されました。先生の備後地域への関心は、単に純粋な学問的興味にとどまらず、備後地域のNPO法人BSB(ビジネスサポート・Bingo)とのコラボレーションに発展します。先生が主宰する「備後経済研究会」が経済学部内に開設され、そこには多くのBSBのメンバーが参加されました。備後経済研究会による備後地域の聞き取り調査には、東京大学や神戸大学、そして大阪大学を始めと

する日本の経営学をリードする研究者が参加されていました。さらに、先生は平成24年にBSBのメンバーとの共同研究となる備後経済に関する2本のdiscussion paperを書かれています。着任してからわずか2年で、すでにこの地域に関するビジョンを持たれていたようです。そして、これ以外にも多くの学術研究を公表されており、平成23年には1冊の著書と4編の論文を著されています。また、共同研究及び出版予定の書物も数多くありました。今となっては、先生の頭脳の中にあった計画をすべて列挙することは、もはや不可能ですが、歳を重ねるごとに研究領域を広げられ、そして分析力を格段に深くなされました。

備後経済への情熱は、備後経済研究会を1つのクッションとして、税務会計学科に「備後経済コース」を設置することにつながっていき、平成26年度に設置されました。また、税務会計学科を会計学や経営学を中心とする学科に育てようともなさっておられました。先生のノートには、将来、開講すべき科目や担当者のリストが記されており、さらに地域に貢献する「備後経済研究センター」の設置をも構想なさっておられました。これらは、現在の経済学部の基本的な方針となっており、先生の発想の大きさを伺い知ることができます。

桑原先生、安らかにお眠りください。

経済学科 教授 入谷 純

南宏一先生のご逝去を悼んで

平成27年4月2日死去

南先生は、鳥取県東伯郡羽合町(現:湯梨浜町はわい温泉)の出身で、昭和39年に大阪工業大学建築学科を卒業後、京都大学大学院工学研究科に進学され、博士課程を単位修得満期退学後に「X形配筋柱の弾塑性性状に関する基礎的研究」の論文で工学博士の学位を授与されています。大阪工業大学で教鞭をとられたあと、平成2年に福山大学工学部建築学科に教授として着任されました。先生の専門分野は、鉄筋コンクリート構造及び鉄骨鉄筋コンクリート構造で、建築物の耐震技術の発展に大きく貢献されてきました。その代表的な研究成果である「X型配筋工法」は、先生の恩師である若林実先生と研究を進めて実用化にこぎつけたコンクリート柱の粘りを向上させる工法で、現在もせん断破壊を防ぐために有効な配筋法として広く活用され、これを発展させた研究が多くの研究者によって取り組まれています。

先生の研究モットーは、「建築構造の立場から『より良い環境と技術の調和』を目指して『真に役立つ技術とは何か』を追求し、社会のニーズに対応すべく新技術の開発を行う」、「研究のための研究はしない」というもので、「社会に役立つ価値のある研究をする」というスタンスで活発な研究活動をされ、卒業研究ゼミでは学生に熱心な指導をされていました。先生の「社会に貢献する」というスタンスは、日本建築学会が建築構造設計の技術向上を目的として作成した数多くの構造計算基準・指針、同解説の執筆活動への取り組みや広島県、岡山県及び山口県の建築士事務

所協会の建築物耐震診断等評価委員会では委員長を務め、地方建築物の耐震性向上に取り組む等の社会活動を活発に実践される形で体现されていました。このような長年にわたる研究や社会貢献活動は、日本コンクリート工学協会賞(昭和52年)、日本建築学会賞[論文賞](平成2年)、日本コンクリート工学協会功労賞(平成17年)、日本建築防災協会理事長賞(平成24年)など数多くの賞を受賞されているように社会から高い評価を受けていました。また、学内においては「福山大学ハイテク・リサーチ・センター(現:安全安心防災教育研究センター構造・材料開発研究部門)」の立ち上げへの功績を忘れるわけにはいきません。さらに、平成7年に発生した阪神・淡路大震災をきっかけとして、文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業」の1つである「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に応募・採択された研究プロジェクト「構造物の耐震性能向上に関する研究」の代表研究者としてご尽力されました。日本有数で西日本トップクラスの耐震研究用の設備を誇り、耐震構造システム開発と性能設計法推進の拠点施設として期待を寄せるこの施設は、「社会に役立つ研究」を目指していらした先生の想いそのもののように感じます。

南先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

建築学科 助教 酒井 要

平成26年度 学校法人福山大学財務状況

資金収支計算書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)(単位:円)

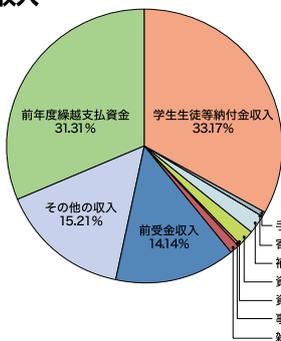
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	5,378,404,615	人件費支出	3,451,158,027
手数料収入	92,719,820	教育研究経費支出	1,762,858,026
寄付金収入	6,742,300	管理経費支出	359,849,878
補助金収入	332,466,919	借入金等利息支出	13,974,112
資産運用収入	330,319,003	借入金等返済支出	131,780,000
資産売却収入	6,779,884	施設関係支出	331,998,115
事業収入	53,790,600	設備関係支出	435,229,066
雑収入	177,865,088	資産運用支出	272,270,348
前受金収入	2,291,829,502	その他の支出	2,141,683,444
その他の収入	2,466,255,646	資金支出調整勘定	△ 206,824,636
資金収入調整勘定	△ 2,441,446,255	次年度繰越支払資金	5,078,171,198
前年度繰越支払資金	5,076,420,456		
収入の部合計	13,772,147,578	支出の部合計	13,772,147,578

消費収支計算書

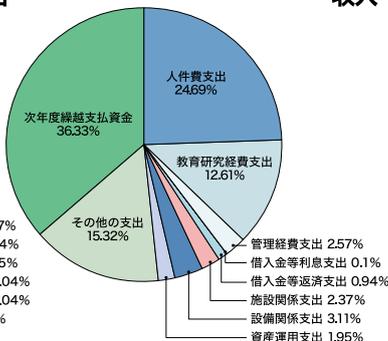
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	5,378,404,615	人件費	3,468,378,575
手数料	92,719,820	教育研究経費	2,751,226,684
寄付金	8,211,083	管理経費	441,962,935
補助金	332,466,919	借入金等利息	13,974,112
資産運用収入	331,032,104	資産処分差額	5,870
資産売却差額	538,875		
事業収入	53,790,600		
雑収入	177,865,088		
		消費支出の部合計	6,675,548,176
帰属収入合計	6,375,029,104	当年度消費支出超過額	△ 300,519,072
基本金組入額	0	前年度繰越消費収入超過額	11,009,755,784
消費収入の部合計	6,375,029,104	基本金取崩額	255,046,379
		翌年度繰越消費収入超過額	10,964,283,091

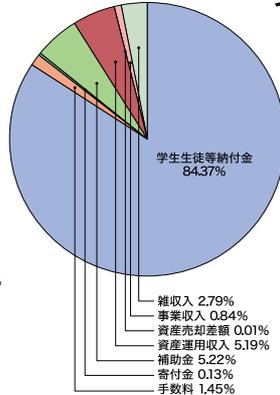
収入



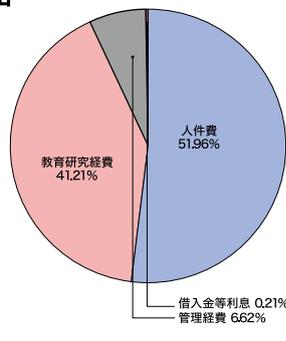
支出



収入



支出



資金収支計算書

資金収支計算書は、企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いもので、学校法人が教育研究その他の諸活動を行うことにより生ずるすべての資金収支の内容を示しています。学校法人の資金収支計算書では、前受金、未収入金、未払金、前払金を加えたもので、個々の収入金額、支出金額は必ずしも企業会計におけるキャッシュ・フローとなっていませんが、別途「資金収入調整勘定」と「資金支出調整勘定」を設けて、これら前受金等を調整することになり、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

科目説明(科目は抜粋)

収入の部(主なもの)

大科目	小科目	備考
学生生徒等納付金収入	授業料収入	各種講座料等を含む
	実験実習料収入	教員資格その他の資格を取得するための実習料を含む
手数料収入	入学検定料収入	その会計年度に実施する入学試験のために徴収する収入
	試験料収入	再試験等のために徴収する収入
	証明手数料収入	在学証明書等の証明のために徴収する収入
寄付金収入	特別寄付金収入	主に研究助成を用途とした寄付金
補助金収入	国庫補助金収入	日本私立学校振興・共済事業団からの補助金を含む
資産運用収入	受取利息・配当金収入	預金利息、債券の利金
事業収入	補助活動収入	学生寮の寮費収入
	受託事業収入	受託研究料
前受金収入	授業料前受金収入	翌年度の学生生徒等にかかる学生生徒等納付金収入
	補助活動前受金収入	翌年度の学生寮の寮費収入
その他の収入	前期末未収入金収入	前会計年度における未収入金の当該会計年度における収入

支出の部(主なもの)

大科目	小科目	備考
人件費支出	教員人件費支出	教員(学長含む)に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費をいう。
	職員人件費支出	教員以外の職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費をいう。
教育研究経費支出	奨学費支出	奨学生の奨学金
施設関係支出	構築物支出	庭園等の土木設備又は工作物をいう。

消費収支計算書

消費収支計算書は、当該年度に帰属する収入から、基本金として支出した金額を控除した消費収入と人件費や教育研究経費などの消費支出を対比し、その均衡状況を示すとともに学校法人の経営状況を明らかにするものとされています。企業会計の損益計算書に近いものですが、損益計算書では計上対象とならない資本的支出が、消費収支計算書では基本金組入額として計上されている点が異なります。

科目説明(科目は抜粋)

収入の部(主なもの)

大科目	小科目	備考
学生生徒等納付金	授業料	各種講座聴講料等を含む
	実験実習料	教員資格その他の資格を取得するための実習料を含む
手数料	入学検定料	その会計年度に実施する入学試験のために徴収する収入
	試験料	再試験等のために徴収する収入
	証明手数料	在学証明書等の証明のために徴収する収入
寄付金	特別寄付金	主に研究助成を用途とした寄付金
補助金収入	国庫補助金	日本私立学校振興・共済事業団からの補助金を含む
資産運用収入	受取利息・配当金	預金利息、債券の利金
事業収入	補助活動収入	学生寮の寮費収入
	受託事業収入	受託研究料
雑収入		学校法人に帰属する上記の各収入以外の収入をいう

支出の部(主なもの)

大科目	小科目	備考
人件費	教員人件費	教員(学長含む)に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費をいう。
	職員人件費	教員以外の職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費をいう。
教育研究経費	奨学費	奨学生の奨学金
	減価償却費	教育研究用減価償却資産に係る当該会計年度分の減価償却額をいう。
管理経費	減価償却費	教育研究用減価償却資産以外の減価償却資産に係る当該会計年度分の減価償却額をいう。
資産処分差額		資産の帳簿残高が当該資産の売却収入金額を超える場合のその超過額をい、除去損または評価損を含む。

貸借対照表

(平成27年3月31日)

(単位：円)

資産の部		負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	60,209,155,914	負債の部	
有形固定資産	30,261,219,832	固定負債	2,313,528,592
うち土地	6,885,223,494	うち長期借入金	550,350,000
うち建物	15,219,070,285	うち退職給与引当金	1,628,781,382
うち構築物	899,071,487	うち長期未払金	134,397,210
うち教育研究用機器備品	2,615,636,933	流動負債	2,571,439,765
うちその他の機器備品	37,828,922	うち短期借入金	104,010,000
うち図書	4,590,686,006	うち未払金	87,870,515
うち車両他	13,702,705	うち前受金	2,291,829,502
		うち預り金	87,729,748
その他の固定資産	29,947,936,082	負債の部合計	4,884,968,357
うち退職給与引当特定資産	1,628,016,830	基本金の部	
うち減価償却引当特定資産	14,994,857,785	第1号基本金	49,314,167,358
うち校舎建設等引当特定資産	7,175,757,976	第4号基本金	407,000,000
うち創設準備引当特定資産	6,112,604,965	基本金の部合計	49,721,167,358
うち保証金他	36,698,526		
		消費収支差額の部	
流動資産	5,361,262,892	翌年度繰越消費収入超過額	10,964,283,091
うち現金預金	5,078,171,198		
うち未収入金他	283,091,694		
資産の部合計	65,570,418,806	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	65,570,418,806

貸借対照表

科目説明(科目は抜粋)

資産の部			
大科目	中項目	小科目	備考
固定資産	有形固定資産		貸借対照表日後1年を超えて使用される資産をいう。耐用年数が1年未満になっているものであっても使用中のものを含む。
		建物	建物に附属する電気、給排水、暖房等の設備を含む。
		構築物	庭園等の土木設備又は工作物をいう。
		教育研究用機器備品	標本及び模型を含む。
その他の固定資産			
	電話加入権		加入電話等の設備負担金額をいう。
流動資産			
	未収入金		学生生徒等納付金、補助金などの貸借対照表日における未収入額をいう。
	有価証券		一時的に保有する有価証券をいう。

科目説明(科目は抜粋)

負債の部		
大科目	小科目	備考
固定負債	長期借入金	その期限が貸借対照表日後1年を超えて到来するものをいう。
	退職給与引当金	退職給与規定等による計算に基づく退職給与引当額をいう。
流動負債	短期借入金	その期限が貸借対照表日後1年以内に到来するものをいう。
	預り金	教職員の源泉所得税、共済掛金等の預り金をいう。

財産目録

(平成27年3月31日)

(単位：円)

I 資産		金額
I. 固定資産		60,209,155,914
土地	大学敷地他 337,887 m ²	6,885,223,494
建物	大学校舎他 149,328 m ²	15,219,070,285
構築物	道路舗装外	899,071,487
教育研究用機器備品	パソコン他	2,615,636,933
その他の機器備品	学生寮厨房機器他	37,828,922
図書		4,590,686,006
車両		13,702,705
船舶		100
建設仮勘定		0
電話加入権		3,048,426
施設利用権		600
保証金		33,489,500
敷金		160,000
退職給与引当特定資産		1,628,016,830
減価償却引当特定資産		14,994,857,785
校舎建設等引当特定資産		7,175,757,976
創設準備引当特定資産		6,112,604,965
2. 流動資産		5,361,262,892
現金・預金		5,078,171,198
未収入金		177,250,755
有価証券		81,329,686
前払金		24,191,003
仮払金		320,250
II 負債		4,884,968,357
1. 固定負債		2,313,528,592
長期借入金	日本私立学校振興・共済事業団	550,350,000
退職給与引当金		1,628,781,382
長期未払金		134,397,210
2. 流動負債		2,571,439,765
短期借入金	日本私立学校振興・共済事業団	104,010,000
未払金		87,870,515
前受金		2,291,829,502
預り金		87,729,748
III 正味財産 (I - II)		60,685,450,449



平成28年度 入学試験の概要

平成28年度入学試験の日程については、次のとおりです。全入学試験において、同窓生・在学生入学金減免制度を実施しています。同窓生・在学生入学金減免制度とは、福山大学・福山平成大学の同窓生の子弟及び在学生の兄弟に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度です。また、同窓生の子弟及び在学生の兄弟とは、入学者の親、兄弟、姉妹のいずれかが福山大学・福山平成大学の卒業生又は在学生(留学生は除く)です。この他、指定校入学試験も実施しています。

なお、入学試験の詳細については入試広報室までお問い合わせください。

◆ 入試日程

入試種別	出願期間	試験日	合格発表日
AO入学試験(第I期)	(エントリーシート提出期間) 平成27年 8月 1日(土) ～ 8月 7日(金)(必着)	平成27年 9月 8日(火)	平成27年 9月 11日(金)
AO入学試験(第II期)	(エントリーシート提出期間) 平成27年 9月 9日(水) ～ 9月 15日(火)(必着)	平成27年10月21日(水)	平成27年10月23日(金)
推薦入学試験(A日程) (試験日自由選択制)	平成27年10月13日(火) ～11月 2日(月)(必着)	平成27年11月 6日(金) 平成27年11月 7日(土)	平成27年11月12日(木)
推薦入学試験(B日程)	平成27年11月24日(火) ～12月1日(火)(消印有効)	平成27年12月 5日(土)	平成27年12月10日(木)
前期入学試験(A日程) (試験日自由選択制)	平成28年 1月 5日(火) ～1月25日(月)(消印有効)	平成28年 1月31日(日) 平成28年 2月 1日(月) 平成28年 2月 2日(火) 平成28年 2月 3日(水)	平成28年 2月 9日(火)
前期入学試験(B日程)	平成28年 2月 4日(木) ～2月16日(火)(消印有効)	平成28年 2月20日(土)	平成28年 2月25日(木)
後期入学試験	平成28年 2月26日(金) ～ 3月8日(火)(消印有効)	平成28年 3月12日(土)	平成28年 3月17日(木)
センター試験利用入学試験 (前期日程)	平成28年 1月 5日(火) ～1月25日(月)(消印有効)	個別学力試験は課さない	平成28年 2月 9日(火)
センター試験利用入学試験 (後期日程)	平成28年 2月26日(金) ～ 3月 8日(火)(必着)	個別学力試験は課さない	平成28年 3月17日(木)

※試験日自由選択制とは、上記試験日の中から、試験日を志願者が自由に選択できる制度です。

志願者は、同一学部・学科を複数回志願することや、異なる学科を1日ずつ志願することもできます。

◆ 試験地

- AO入試(1期・第2期) 【福山(宮地茂記念館)】
- 推薦入試(A日程) 【11/6・11/7 本学・福山(宮地茂記念館)・広島・福岡・岡山】
【11/6 鳥取・徳島・高知・大阪・那覇】【11/7 松江・高松・松山・神戸・山口】
- 推薦入試(B日程) 【本学・福山(宮地茂記念館)・広島・山口・松江・高松・松山・福岡・岡山・大阪】
- 前期入試(A日程) 【1/31～2/3 本学・福山(宮地茂記念館)・広島・山口・福岡・岡山】
【1/31 鳥取・浜田・宮崎】【2/1 米子・大分】【2/2 静岡・神戸・熊本】【2/3 名古屋・京都・佐賀】
【1/31～2/1 東京・大阪・松山・高知・鹿児島】【2/2～2/3 松江・高松・今治・小倉】
- 前期入試(B日程) 【本学・福山(宮地茂記念館)・広島・岡山】
- 後期入試 【本学・福山(宮地茂記念館)・広島・福岡・岡山・大阪】

編集後記

学報第145号では、今年開学40周年を迎えた福山大学開学記念行事の様子を中心に、平成26年度の就職状況や新入生合宿オリエンテーション、学内トピックス等の話題を載せることができました。特に、記念行事においては福山の誇る喜多流大島楽堂の「喜多流能楽公演」が行われました。また、就職状況では99%を超える就職内定率となったことを伝えることができ、新入生合宿オリエンテーションでは仲間となった学生同士で親睦を深めるなど、新入生が非常に良いスタートを切ることができたことが伝わる内容となりました。

発行 福山大学
編集 福山大学広報委員会
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>